
枯れゆく暗黒の木と咲きゆく白い花

たくみ226

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

枯れゆく暗黒の木と咲きゆく白い花

【Nコード】

N5032B

【作者名】

たくみ226

【あらすじ】

コナンと哀を中心に、組織に立ち向かっていく話です。一応蘭は死にませんし、ほかの方と幸せにする予定ですが、この話はコナン×哀です。

プロローグ

ある秋の日・・・

イチヨウなどの落ち葉がヒラヒラと舞っている公園で、ある二人の少年少女が、まるで交際しているかのごとくベンチで座っていた。

「新一。」

少女は、何の気もなく、隣に座っている「少年」のことを『新一』と言った。

その瞬間、その『新一』と言われた少年は、少しむすつとしていた。

「哀、オレはもう『その名前』は捨てたんだ。ついこの前に言ったろ？」

少女がゆっくりと自分を支配している表の真白な感情を込めて言った。

「でも、私、その名前で言ってみたかったのよ。その貴方シンイチの時のことを忘れたい訳じゃないから…」

「私たち、これでよかったのかしら？」

少女は少し後悔しながら言った。

「ああ、もちろんだ。お前がいてくれるならこれで良い。やっぱり、お前との方がちゃんとした『恋愛』だから…」

少し間をおいて、ゆっくりと喋りだした。

「…でも、ここまで来るのに色々あったわね？」

少年は少し考えながら言った。

「ああ、確かに、組織を倒して平和な世界が哀に届いたしな。」

ここで、すこし恥ずかしながら少年は言った。

「それに、哀の『真白』な心も見れたし。」

彼らがこの時までにしてきた、蛮行を繰り返してきた悪の輩との戦いで、数々の力行があった・・・

プロローグ（後書き）

こんにちは、たくみ226です。

今回連載でははじめての『始めからコナン×哀』の小説を作ることになりました。

組織と戦う内容ですが、『コナンと黒の組織』シリーズは、政治的、軍事的観点から進めていきますが、今回はそういった進み方は極力避けるようにしていきたいと思います。

こちらは警察・FBIを主に出していく予定で、CIAはあまり出さないつもりです。

この小説が本格的に動き出すのは4月以降です。

それまでは『コナンと黒の組織』に全力を挙げていきます。ついでに、完結は夏・秋ごろを予定としています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5032b/>

枯れゆく暗黒の木と咲きゆく白い花

2010年10月11日16時52分発行